

感染症に気をつけよう!

2016年【4月号】

横浜市内の感染症 流行状況

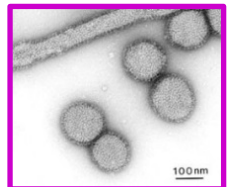


感染症	流行状況		説明 【解説付き既刊号等】 ← クリック
	流行	減少	
インフルエンザ	流行	減少	報告は減少傾向ですが、重症例もあります。まだ、しばらく流行が継続すると考えられるので、警戒が必要です。【'16.3号】
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	やや流行	横ばい	例年に比べ多い状況が続いています。予防には手洗いが大事です。1歳から予防接種が受けられます。【ワクチンちらし】

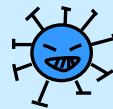
今、気をつけたい感染症 インフルエンザ



現在の流行の中心は、インフルエンザB型です。同じシーズン中にA型とB型の両方にかかる可能性もあります。子供と高齢者では、重症化に特に注意が必要です。

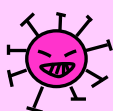


インフルエンザウイルスの電子顕微鏡像
国立感染症研究所ホームページより



予防の基本は正しい手洗いです。

もし症状が出てしまったら、周囲に感染を広げないように咳エチケットを守り、早目に受診してください。



抗インフルエンザ薬を使って熱が下がっても、他の人にうつす場合があります。

学校等は、「症状が出てから5日間が過ぎ、かつ、熱が下がった後2日間(幼児は3日間)は休むこと」とされています。かかりつけ医に相談しましょう。

